

前回の議論を踏まえた論点の整理と今後の議論の進め方

【給付額に関する論点】

① 給付基礎額等の見直しに関する論点

- 自民党の提言で示されている以下のような事例については、給付基礎額等の算定方法の一定の見直しにより、給付額を引き上げる余地があるのではないか。
 - ・ 収入がある被害者と比べて、幼い子供や学生、家事労働者等の収入がない被害者の給付基礎額が低いのではないか。
 - ・ 被害者の収入が同じ場合に、被害者に生計維持関係遺族があったときと比べて、被害者に生計維持関係遺族がいなかったときには、遺族に支給される給付額が低くなるどころ、残された遺族が精神的ショックから十分に就労できなくなり、経済的に大きな打撃を受けるといえるのではないか。

→ 現行法の下で給付基礎額等を見直すこととした場合、どのような考え方があり得るか。

② 現行の算定方法にとらわれない見直しに関する論点

- 犯罪被害者への給付の支給水準については、民事訴訟における損害賠償があるべき姿ではないか。
- 民事訴訟における損害賠償額そのものを補償するには、個別の債務名義が確定することが必要なのではないか。
- 民事の損害賠償の第一次的な責任が加害者にあることも考えると、犯罪被害給付制度の枠内で民事の損害賠償額を目標とした制度とすることができるのか。新制度の創設が必要なのではないか。
- 犯給制度は掛金や保険金を前提としておらず、社会保障制度そのものではない。制度の趣旨を踏まえた議論が必要なのではないか。

【その他の論点】

- 過去の制度改正においては、改正制度の施行後に行われた犯罪行為による死亡・重傷病・障害から新制度が適用されるという考え方だったが、これを見直すことはできないか。

【今後の議論の進め方】

- まずは、「給付額に関する論点」①について、具体的にどのような制度改正が可能か議論してはどうか。
- 「給付額に関する論点」②については、専門家からのヒアリングをするなどをした上で、議論を深めてはどうか。